

津高

## 津高校だより

令和2年度 第2号 編集・発行 三重県立津高等学校

## 年間行事計画の大幅な変更

6月1日から教育活動を再開し、通常授業を行うようになりました。行事の見直し、年間計画の再編等を行ったため、例年とは違った学校生活を過ごすこととなりました。高校総体県予選は多くが中止となり、最後の大会に参加せず、引退となった生徒も多くいました。2年生の北海道修学旅行は延期となり、期待していた多くの行事は先送りとなりました。しかし、学校に出てきて、みんなで対話して、いろいろな目標設定を定めて取り組むという単純なことの大切さを認識できました。早くいつもの生活に戻ってほしいと願うばかりです。



## 東大キャンパスツアーは延期

津高では、大学の最先端の研究や実際の大学生生活を体験する目的で、毎年、東京大学でキャンパスツアーを実施していました。東大の本郷キャンパスで工学部、医学部の講義や実習の体験を行う予定でしたが、コロナウイルスの影響で夏季休業中の実施は見送りました。大学での勉強や高い目標設定のために重要な行事と考えていますので、秋以降の実施の検討を続けたいと思います。



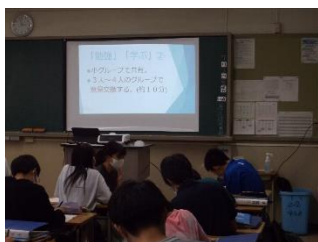
## 3年生学年集会を実施



6月19日（金）に体育館にて、3学年学年集会を行いました。緊急事態宣言により通常授業のスタートが遅れたことで、大学入試にかなりの影響がでけると予想されていましたが、共通テストの日時や出題範

囲の変更は基本ないこととなり、受験生は例年と同じ対策をとることになります。夏休みの期間に課外を行ってききましたが、夏休みを短縮したことで、夏季課外は実施できなくなりました。授業の中で演習を盛り込むという密度の濃いものを要求されることとなり、学年全体で取り組むことを意思統一し、学習進捗を随時確認していくことを伝えました。コロナ感染予防対策として、体育館の中でソーシャルディスタンスを保ち、換気に気をつけながら実施し、それでも第1志望はゆずれないと学年全体で確認して終了しました。

## 学ぶことについて ～1年生人権学習



6月19日と7月3日、1年生を対象に人権学習を行いました。人権尊重の主体は自分である。自分はどう生きるのか、何をしたいのか。自分らしく生きることの自己実現に向けて、何が必要なのかという視点で「学び」を捉えることを目標にしました。高校入学後、臨時休業が続くクラス内にまだ打ち解けた雰囲気がないため、アイスブレイクとして「Good & New」を取り入れました。クラス全員で、24時間以内にあった「よかったこと」か「新しい発見」についての話を言い、ポジティブな思考や雰囲気の活性化に役立てました。話題性が豊富で笑いや驚きがあり、しっかり話し、聞く姿勢が築けてよかったと意見がでました。次に本題である「学ぶこと」とは何か、『なんのために学ぶのか』と『「学ぶ」ということの意味』という資料をもとに討議しました。次の人権学習ではペアワークを通して、自分の考えたことを発表するため、家族、友だち、先輩、中学・高校の先生等からの意見を聞いてみるとよいと担任から説明を行いました。高校での人権学習の導入として積極的に話し合うことができました。

## 2学年のSS探究活動Ⅱが始まる

2学年の生徒は臨時休校のために遅れていたSS探究活動により取り組むことができました。前期に1年次の試行的課題研究の手法を基に、テーマを設定し、計画を立てて、

個人またはグループで課題研究に取り組む。また、大学の研究室や企業等を訪問し、専門家からの指導・助言を受け研究を深めていくカリキュラムです。後期では研究成果のまとめ方、発表の仕方を学び、SSH研究成果発表会やみえ科学探究フォーラム等で発表する流れとなっています。



6月19日(金)のSS探究活動Ⅱの時間に、テーマ研究①が行われました。78のグループに分かれて、グループのテーマの設定を行いました。今年度はコロナ対策をしながらの研究になりますが、出来ることをやっといこうと確認しました。7月3日(金)にはテーマ研究②が行われ、各グループのテーマを決定しました。今後の予定を決めたグループが多い中、早くも実際に研究を行う班もありました。コロナウイルス対策の関係で、文献調査や参考書、インターネットから情報収集が中心になっています。例年は2月に生徒成果発表会が予定されていますが、コロナウイルスが収束して、成果発表ができることを祈ります。

## 令和2年度の夏季休業

今年度の夏季休業は年間行儀計画の見直しにより、8月7日(金)～8月18日(火)となった。これほど短い夏休みになることは今後ないでしょう。例年、1ヶ月程の期間があり、夏季課外をはじめ、部活動の合宿や遠征など、日頃できない取組にチャレンジできる期間であったと思う。集中した勉強やトレーニングが例年のようにできないと思うかもしれないが、通常的生活サイクルがちょっと早く戻ってくるだけとプラス思考で捉えて、9月以降の学校生活に期待したいと思う。

## 図書館探究講座1を開催しました。

8月7日、三重県総合博物館の昆虫専門学芸員の大島康宏さんをお招きし、「すぐそばにあるワンダーランドー学芸員に見えるモノー」と題して図書館探究講座を開催しました。



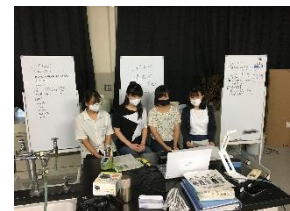
生物多様性を理解する上で、分類学は基本的かつ重要な学問である。博物館とは資料を収集し、展示する

ところ。人文科学および自然科学を展示してあると総合博物館となるなど分類学が楽しい学問であると説明していただいた。また、学芸員には自然史資料を保管する大変な作業があり、昆虫にカビが生えたり、腐ったりするとダメなのできちんと整理する必要がある。さらに標本を分類するのに多大な作業時間が必要だが、フィールドに出て、実際に昆虫を捜すことで新しい発見があるとワクワクすると話してください。小さいころからの夢を大切に、持ち続けることが重要と説明してくれました。

## 津高校SSC・上野高校USSLabオンライン交流会

コロナウイルスの影響で、合同に発表会を行う以前の形式では交流会や発表会が実施できない状況となっている。しかし、SSHの方針の一つは研究成果を発表し、意見交換を行うことである。昨年度の3月に上野高校と合同研修会を実施する予定であったが、コロナウイルスの影響で中止となった。しかし、交流会はオンライン形式で開催できるのではないかと企画があがり、8月3日に実施することとなった。

津高校SSC化学部の発表では、文化祭で企画予定の「液体窒素を使った-196℃の世界」について説明を行った。オンライン



ツールとしてZoomを使い、双方向での通信を行い、意見交換ができた。一定時間が来ると通信を一度中断する苦労もあったけれど、聴いてくれる対象がいる中で、緊張して発表している生徒の姿に交流の大切さを感じることができた。